

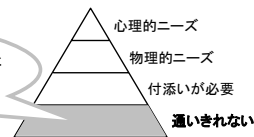
## いつもの病院で 治療できないこともある

風邪を引いたり、けがをしたり、予防接種を受けたり……。子どもを連れて病院に行くときには家の近くのクリニックや地域の病院の小児科を受診します。しかし小児科・産婦人科の集約化が進み、一番近い病院を受診しようと思っても負担が多い地域もあるでしょう。

事故にあったり、小児がんや症例数の少ない難病に罹ると家から近い病院、いつも通っている病院では治療ができないこともあります。高度先進医療を行える病院は大学付属の病院や公立・準公立病院など都道府県内に数ヶ所に限られ、さらに高度な医療を必要とする場合は都道府県を越え、全国から患者が集まる病院へ行く必要がでてくることもあります。

交通の利便性や環境など、地域によって状況が異なりますが、さまざまな負担を抱えながら、高度な医療が必要となった子どもの病気と向き合うこととなります。

自宅から通いきれない病院に行く必要のある病気になった  
いつもの病院で治療できないこともある



ハイリスク出産に対応できる病院は県内でひとつの病院に集約化する傾向がある。

(小児科医師)

都道府県内でも片道3時間かかる地域もある。雪深いので山越えが必要な地域から通うことは負担は大きい

(小児科医師)

都道府県内で片道1時間半といっても、公共交通機関は本数が少なく、乗り継ぎを考えると倍の時間がかかることもある。

(ハウス運営者)

都道府県内の基幹病院に通おうと思うと3時間かかり、それなら新幹線を使って東京の病院に通える時間だと思った。

(ハウス利用者)

都道府県内に島嶼がある。交通機関も不便。毎日、病院へ通うことはできない。

(ハウス運営者)